



千葉大学附属図書館 における リエゾン・ライブラリアン の活動

第51回中国四国地区大学図書館研究集会

千葉大学附属図書館
鈴木宏子・千葉明子
fbe2262@office.chiba-u.jp



内容

- リエゾン・ライブラリアン・プロジェクトとは
- リエゾン・ライブラリアンの活動
 - 授業資料ナビゲータ
 - レポート作成セミナー
 - ポッドキャスト
- 授業資料ナビゲータの実際(作成・利用状況)
- 教員との連携
- 課題
- リエゾン活動の目指すもの

リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト

- 発足までの背景
- 始まりはパスファインダー
(授業資料ナビゲータ)

発足までの背景

- **非来館学生へのアプローチ**
初年次学生には情報リテラシー教育
研究者にはWebによるリソースの提供
学部学生(図書館に来ない学生)へは何を？
- **学部学生へのアプローチには、教員へのアプローチが必要**

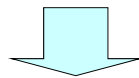
リエゾン・ライブラリアン という考え方

- 「日米大学図書館オープンフォーラム@千葉大学
2005.11」
マサチューセッツ大学のリエゾン・ライブラリアンSharon
Domier さんによる紹介
- リエゾン・ライブラリアンとは
学科(分野)ごとに、
教員の窓口となり、
依頼を聞く、レファレンスをする、学生に情報リテラシー教
育を行う、選書のサポートをする。

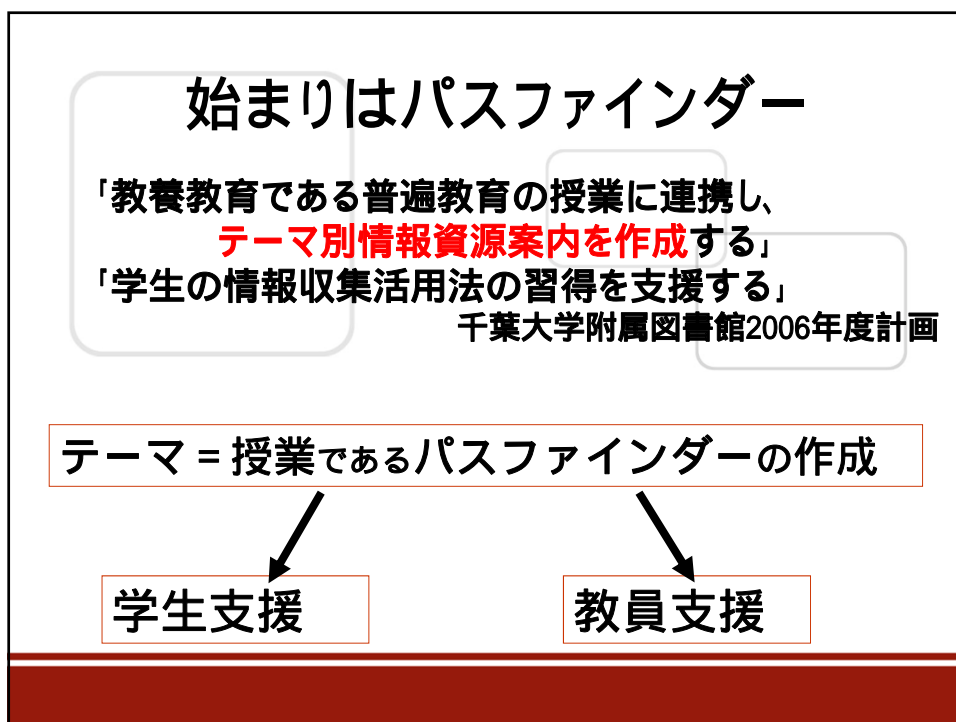
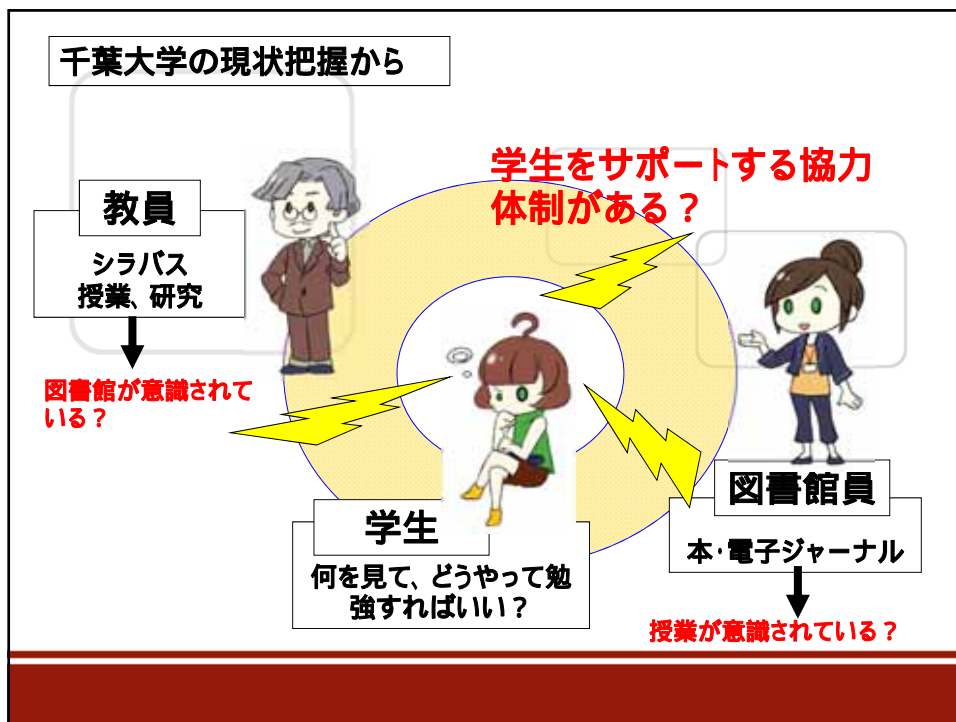
サブジェクト・ライブラリアンより実現可能な形

リエゾン・ライブラリアンがいれば

- 学部・教員に近づく
- 教員に近づくことで学生に近づく
- 教員に近づくことで機関リポジトリへのアドヴ
ォカシーに繋がる



- 実現のために 何ができるか？ = 現状把握





- ## パスファインダー 作成の経緯
- ### (2006 ~ 2008)
- 2005.10 学長に対し非来館学生へのアプローチについてプレゼン
 - 2006.6 普遍教育センターと連携協議
学長に対し、米国視察報告と、リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト計画のプレゼンを行う
 - **2006.10 リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト発足
(図書館員7名 + 研究開発室教員)**
普遍教育センターと次年度パスファインダー作成打合せ
 - 2006.12 普遍教育教養コア科目担当教員と意見交換
 - 2007.1 部局長連絡会で事業の紹介、試作品完成
 - 2007.2 未所蔵資料の発注
 - 2007.3 パスファインダー完成 (29科目作成)
 - 2007.4 パスファインダー公開、パスファインダーコーナー設置
 - 2008.4 **パスファインダー名称変更 「授業資料ナビゲータ」へ**

リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト

- 現在の活動

リエゾン・ライブラリアン・プロジェクトの活動



1.パスファインダーによる授業の文献紹介

事前・事後学習への関心

授業資料ナビゲータ (PathFinder)

読書力・読解力

授業資料ナビコーナー

教養の授業って
どう勉強するの
かわからない!



初めて触れるテ
ーマでもこれな
ら、どんな本か
らスタートした
らよいか、もう迷
いません。



ターゲット学部1、2年生

学部1、2年生	授業科目	授業内容
	英語	英語の基礎から応用まで、読解力や表現力を伸ばす。
	英語	英語の基礎から応用まで、読解力や表現力を伸ばす。
	英語	英語の基礎から応用まで、読解力や表現力を伸ばす。

**新着教養コア科目の学習に
授業資料ナビを活用しよう!**

授業資料ナビゲータは、授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。

授業資料ナビ例

授業科目	英語
授業内容	英語の基礎から応用まで、読解力や表現力を伸ばす。
授業資料	英語の基礎から応用まで、読解力や表現力を伸ばす。

授業資料ナビゲータは、授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。

授業資料ナビゲータは、授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。

授業資料ナビゲータは、授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。

授業資料ナビゲータは、授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。授業科目の学習に必要な資料を紹介するツールです。



図書には 授業名の帯をつけて配架
貸出用、館内用があります



とりあえず
この本、読
んでみよう



2. レポート作成支援セミナーやコンテスト

どうしよう。
レポートの書き方が
分からない...



**レポートの書き方
がわからない!!**

**ジャパノロジーレポート
応募対象に!**

これからのレポートは競合策に!

レポート作成セミナー開催!

講師: 白川優治(普通教育センター)



レポート募集のイベントを開催(H21)

JapanKnowledge+

レポート大募集!!

募集期間: 2021年10月1日(水)～10月31日(日)

募集対象: 学部1年生～4年生

募集内容: 学部1年生～4年生

募集期間: 2021年10月1日(水)～10月31日(日)

募集対象: 学部1年生～4年生

募集内容: 学部1年生～4年生

**レポート・論文の書き方について
教員と協力し、講習会を開催**

- ・文学部1年生Aさん 「どのようなレポートがよいのかと、情報収集の手段がわかってよかった!」
- ・教育学部1年生Bさん 「レポートは高校ではなかったものだったので、今日はとても参考になりました。」
- ・文学部1年生Cさん 「今まで書いていたものが、悪いレポートだとわかりました。少しずつでも良いレポートにしていきたいです。」

「レポート作成セミナー」
もあるのね。これなら、上
手にレポート書けそう。



論文の書き方についてのコーナーがあると助かるなあ。へー、こんな資料もあるのね！



レポート作成セミナーの他にも様々な講習会を開催したり、論文の書き方についての図書コーナーを作成しているのよ！

やる気が出てきたわ！

論文の書き方についての図書コーナーを作成立ち止まって本を手取る方や、貸出を受ける方が大勢います。書架に眠っていた資料が、利用されるようになりました。



3. ポッドキャストによる研究・教育情報の発信

知的好奇心・
学習意欲の
高まり



あ、図書館の番組だって！ポッドキャストなら空いた時間に聞けるね。

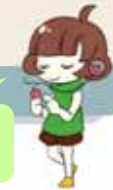
パソコンや対応機器で番組を購読



・非来館学生へのアプローチ

- 関連資料の利用増加
- 紹介した授業の受講者増加
- 図書館ガイダンスの参加者増加
- 図書館案内の多言語サポート

なんだか面白そう！先生の授業、受講したいな。



ポッドキャスト これまでの制作プログラム

カテゴリ	プログラム	公開日
図書館情報	ライブラリー・ツアー	2008.4
	ライブラリー・イントロダクション(日本語)	2008.4
	ライブラリー・イントロダクション(英語)	2008.4
	ライブラリー・イントロダクション(中国語)	2008.4
	ライブラリー・イントロダクション(韓国語)	2008.4
	図書館Q&A	2008.4
	図書館ガイダンス	2008.11
	ライブラリー・ツアー(亥鼻分館)	2009.4
	学士院賞受賞作を語る	2008.5
	「図書資料に見るトルコの文化と歴史展」解説	2008.6
千葉大学の研究を語る	「源氏物語絵巻展」解説	2008.7
	教員と学生が作った教科書を語る	2008.9
	環境リモートセンシング研究の紹介について	2009.4
	研究テーマ「欠席判決」について	2009.6
	「澤田重隆油彩作品展」紹介	2008.1
展示紹介	「千葉市の医学と医療展」解説	2008.11
	「千葉大学創立60周年記念展示」活躍する卒業生に聞く	2009.10
千葉大学の教育	司法試験合格者インタビュー	2008.11
	司法試験合格者講演	2008.12
	特色GPパーソナルデスクラボ紹介	2009.1



教員、学生と図書館員の共同作業で番組は作られています。来館の、読書の、受講の、きっかけになるようなプログラムを制作します！

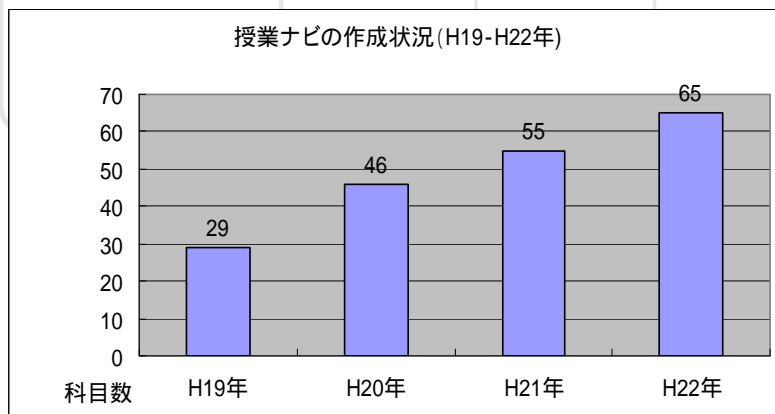


授業資料ナビゲータ (パスファインダー)の実際

- 作成状況
- 利用状況

授業資料ナビゲータ作成状況

当初は普遍教育(教養科目・人文社会学系)のみを対象としていたが、平成21年より文学部の授業にも展開、平成22年からは普遍教育の自然科学系の授業にも提供。



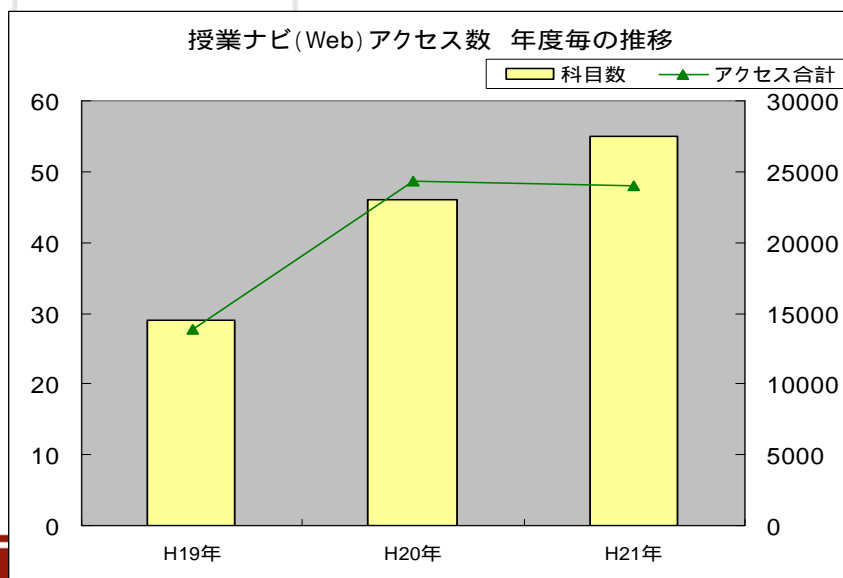
利用状況

- 貸出数
- アクセス数
- 館内利用

授業資料ナビゲータ図書貸出実績

	a 貸出対象冊 数(全体)	b 貸出された 図書冊数	c 貸出回数	$b \div a$ 貸出率
H21(2009)	321	160	282	49.80%
H22(2010)	448	245	419	54.60%

Webのアクセス数(H19-H21)



RFID による館内利用調査

貸出不可の館内利用の授業資料
ナビゲータ図書は、図書館の中で
どれくらい読まれているだろうか？

(調査方法)

2010年度より、RFIDを導入。本に
装着したUHF帯のICタグを、書架に
取り付けたリーダーが定期的(45秒
毎)に読み取ることで、書架から取り
出す回数を調査。



RFID: Radio Frequency IDentification

利用者の反響

- 学生の声
- 教員の声



学生の声

- すごく参考になりました！できればもっと多くの授業(特にコア)で資料ナビを展開して欲しいです。
- 今回は利用しなかったが、いいシステムだと思うので今後は積極的に利用したいです。
- 授業後のさらなる勉強のために役立つと思う。もっといろいろな授業で用いた方がいいと思う。
- この先、役立てるようもう少し宣伝した方が良いと思います。
- 使い方がわかりません。



教員の声

- 参考文献が一目で分かり、学生がレポートを書く上でも有益。
- 授業内容と連動させて図書館に配架されているのはとても有益。もちろん自力で探すということも大事だが、きっかけをつかみやすいという意味ではとても良いように思う。
- (教養科目は)ほとんどの学生が専門外である場合が多く教える側からすれば「せめてこの1冊はちょっと読んでみる」的な紹介が一番のように思っています(中略)それを考えると、この仕組みは教養展開科目や学部の専門科目にこそあるとよいのかな(特に教養展開科目)と感じました。

教員との連携

- 授業資料ナビゲータ作成過程
- 授業改善へ
- 教員への聞き取り調査(インタビュー)

教員との協働作業

フィードバックの繰り返し作業

教員

- 情報提供・アドバイス
授業のテーマ
キーワード
参考文献
- 校正査読
- 修正依頼
- 確認・校了
- 授業で紹介、配布

図書館員

- 協力依頼
- 調査と文献収集
所蔵有無、入手可否
- 編集
- 校正依頼
- 修正
- 完成、Web公開・印刷
- 図書 of 装備・配架

FD・授業改善へ

FDへの関与

文学部ではH20年よりFD活動に採用

H21年より(普遍教育・文学部の)各教員には、学生アンケートと利用実績(貸出実績)をフィードバック

H22年より数名の教員にインタビューを行い、さらにきめ細かい授業のフォローを目指している。

教員インタビュー(1) 教養授業「写真というメディア」

- 授業資料ナビゲータの利用形態
授業資料ナビゲータのプリントは初回授業時に配布。
各授業冒頭で、参照文献としてPPTに提示。PPT資料はHPにも掲載
授業では毎回授業終了時にショートペーパーを作成させる。
- 掲載図書の利用実績について
ロラン・バルト「明るい部屋」の貸出回数が多いが、これは必ずしもこの授業の受講者だけではないかもしれない。しかし受講者からも、バルトへの反響はかなりあった。授業でも特に力を入れたので、貸出が多いことは嬉しい。
期末試験やレポートを課さないで、レポート資料としては利用されることは無い。図書を借りているとすれば、授業に相当強い興味を持った学生だろう。

教員インタビュー(2) 文学部授業「歴史学入門」

- 授業と授業資料ナビゲータとの関連
 - ナビ掲載図書はHPの推薦図書リストを元に図書館と共同で厳選し印刷体も配布し、授業当初から重要資料を提示することができた。
- 授業資料ナビゲータで明らかになったこと、期待するもの
 - ナビを作成することで必要な資料が図書館に無いことがわかった。
 - 学生が自ら学ぶための「動機付け」としての効果进行期待。
 - 情報そのものをネットで入手することに慣れている世代の学生たちに対し歴史学における「紙媒体へのアクセス」の重要性を指導することが狙いの一つ。
- 利用履歴について
 - 他の授業との兼ね合いもあり、授業期間中はナビ本掲載図書を読むことは難しかったかもしれない。
 - (貸出回数は)惨憺たる結果だが、学科内で情報を共有し、どのような資料を掲載すべきか、また、ナビをどのように授業で活用するか検討したい。

課題

- システム
- 体制
- その他

課題1: システム改善



- Course Management System(Moodle)の活用
作業量の軽減
各授業の教材として掲載
今後は、アンケート、フォーラム、コメント等インタラクティブな活用を目指している。

課題2:分野ごとの体制

- 分野ごとに担当する体制は未確定

授業資料ナビゲータ作成過程で自然と担当分野が決まってくる者もあり、

さまざまな分野の授業資料ナビゲータを作成し、分野が定まらない者もあり

リエゾン活動の目指すもの

- (大学図書館が)リエゾン(連携協力)する相手とは、**教員・研究者と大学組織**であり、
- この活動を**大学全体の目的、活動と関連づける**ことが重要。
- そこで初めて大学教育における図書館の存在意義を高めることができる。

新しい図書館へ

- 千葉大学附属図書館増改築工事により、**2012年新図書館(アカデミック・リンク)**へ

学内共同教育研究施設として、
能動的学習の支援

教育コンテンツの制作・活用に関する研究開発・
企画を行なう。

教員・学生・図書館員が協働し教育改革へ

2012 アカデミック・リンク

**学習支援と
アクティブ・ラーニング・スペースの提供**

ライティング・センター

ティーチング・ハブ

FD支援、CMS利用支援

コンテンツ・ラボ

授業のコンテンツ化

参考文献

日米大学図書館オープン・フォーラム

<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~joho/Workshop/openforum2005/index.html>

(参照2010-10-1)

金山亮子、武内八重子「日本におけるリエゾン・ライブラリアン - 千葉大学附属図書館の挑戦」『専門図書館』No.222 2007.3 p.15-20

http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/irwg5/liaison_librarian.pdf (参照2010-10-1)

鈴木宏子、武内八重子、中村澄子「図書館による学習支援と教員の連携：千葉大学におけるパスファインダー作成の実践から」『大学図書館研究』83号 2008, p.19-24 http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/irwg12/03860507_83_19.pdf (参照2010-10-1)

Thank you.....